



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	サブカルサブリ第10回 : 県民必読!? 所沢発、超シニカルギャグマンガ
Author(s)	山村, 高淑
Relation	埼玉新聞2011年2月27日版、特集「サイタマニア」、p.2
Citation	埼玉新聞
Issue Date	2011-02-27
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/57499
Type	article
File Information	20110227Saitamania subcul suppl No.10.pdf



2011年(平成23年)2月27日(日曜日)

山村高淑の サブカル サブリ



アニメや漫画の舞台地が多いサブカル王国・
埼玉。その魅力を「アニメツーリズム」の専門
家、山村高淑氏が紹介する。

埼玉から東京へ行くには通行手形が必要。都内の高級百貨店を埼玉県民がうろついていると武装ガードマンによる「埼玉狩り」が行われ、百叩きのうえ、埼玉へ強制送還。そんな東京都、そして国の差別的圧政に、所沢の大地主の息子、アメリカ留学帰りの麻実麗(あさみ・れい)が立ち上がる…。

なんというか、『第9地区』を髣髴させるストーリーが都と埼玉の間で繰り広げられる、恐らく、埼玉を最も侮蔑的に描いたマンガ。それが、あの『パタリロ』の作者、シニカルなギャグの天才、魔夜峰央先生の隠れた問題作(?)『翔んで埼玉』です。1982年から1983年にかけて『花とゆめ』別冊に連載された作品で、単行本『やおい君の日常的でない生活』(白泉社)に入っています。

描かれていることは侮蔑的な内容なのですが、そこは天才・魔夜先生、不愉快になるというより、笑いながらも考えさせられる秀作になっています。というのも、随所に仕掛けられた風刺や皮肉がすごく深い。都民の

県民必読!?

所沢発、超シニカルギャグマンガ

持つ差別意識や地方出身者のコンプレックスに始まり、果ては都政、国政までパロディにしていまいつつも、痛烈な皮肉を込めている。一見荒唐無稽なギャグマンガでありつつ、すごい社会派マンガに仕上がっています。特に「あなた自分たちの地方からも国会議員は選出されていると思ってるんじゃないですか?それはまちがいです。じつは東京都民が地方出身者に化けているだけなのです。知りませんでしたか、明治時代からずっとそうなんです」なんてセリフ。北海道在住の私は笑うに笑えず、戦慄を覚えますね…。

この作品、あとがきにもあるように、作者が所沢在住だったときの作。編集長と編集部長が近所に住むというストレスを、所沢、埼玉県全体をおちよくすることで作品に変えていったとのこと。惜しむらくはPART3まで描いたところで筆者が横浜に引っ越し、未完になったままのこと。幻の埼玉県民・埼玉デュークの正体って誰なんですか!?魔夜先生、埼玉県民のために是非続きをお願いします!!

(サブカルサブリのツイッター)

@subcul_supple)

●プロフィール

やまむら・たかよし：北海道大学観光学高等研究センター准教授。
埼玉県アニメツーリズム検討委員会座長。